

第2回 新大宮上尾道路(与野～上尾南)景観検討会議 議事概要

1. 日 時：令和元年11月26日（火）18：00～20：00

2. 場 所：大宮国道事務所 第1会議室

3. 出席者

事業景観アドバイザー

深堀 清隆 埼玉大学大学院理工学研究科 環境科学・社会基盤部門准教授 [座長]

福井 恒明 法政大学デザイン工学部 都市環境デザイン工学科教授

吉田 慎悟 武蔵野美術大学造形学部 教授

委 員

田中 倫英 国土交通省関東地方整備局 大宮国道事務所長

高橋 三雅 首都高速道路(株)東京西局プロジェクト本部長

狩生 正彦 さいたま市建設局土木部 広域道路推進室長

東 邦彦 上尾市都市整備部 都市計画課長

4. 議 事

(1) 挨拶

- ・大宮国道事務所長
- ・首都高速道路(株)東京西局プロジェクト本部長

(2) 議事

- ・規約改正について
- ・自治体の景観計画
- ・高架橋の景観について
- ・附属物の景観上の配慮方針
- ・自治体の景観計画との整合
- ・今後の予定

<主な意見>

- 高架橋区間には、渡河橋、跨線橋、跨道橋等があり、構造規模も大小様々であるが、それぞれの構造上の制約から、高架橋の構造形式、桁や橋脚の形状や大きさが多様である。
- 高架橋の美しさの源は「連続性」にあることから、異種構造物の接続部等は、可能な限り滑らかに接続すべき。
- 大規模な構造物は、圧迫感を軽減するべく形状と色彩を工夫すべき。
- 対象地域は、南から北へ、市街地から田園景観へと移り変わる傾向が見られるが、宮前 IC から北方面の土地利用も、都市的な用途に既に変遷しつつある。

- 検討区間内で多様な形式の橋桁や橋脚が混在する。
- 以上のことから、桁の色彩は、区間内で変化するどのような景観特性にも馴染むものとして「グレイッシュベージュ系」を候補色とする。
- 橋脚は、コンクリート橋脚と鋼製橋脚が混在し、T型、門型などの形状も混在することから、鋼製橋脚の色彩はコンクリートに近似した「オフグレー系」を候補色とする。
- 附属物整備の配慮方針として以下を確認。
 - ・高架橋としての連続性・デザインの一貫性を確保する
 - ・長期に亘る清潔感・維持管理性に配慮する
 - ・附属物による煩雑感の軽減に配慮する
 - ・すっきりとした道路内景観を確保するとともに、外への眺望や閉塞感の軽減に配慮する
- 引き続き事務局が事業景観アドバイザーから助言を頂きながら検討を実施。

以 上